

特別講演 2

「HPV ワクチンを全ての科の先生に知って欲しい！」

日本臨床内科医会公益事業委員・学術部感染症班

福井県済生会病院 産婦人科主任部長

黒川 哲司 先生

がんは、遺伝子異常によって細胞が制御抑制不可能に増殖することである。がんの遺伝子異常を起こす要因の一つが感染症である。感染症要因のがんは、2015 年の日本のがん発症率の 16.6%、がん死亡率の 17.7%と推定された。その内、女性で 2 番目に頻度が高いのが HPV-子宮頸がんである。HPV に関してはワクチンが開発され感染予防が浸透してきている。今回の講演では HPV 感染における最新のトピックスを紹介する。HPV 感染は主に性器接触による感染である。通常は性行為であるが、その他の親密な接触（例：オーラルセックス、肛門性交）によっても感染を起こす。近年、本邦から分娩時の母子感染も報告された。その感染経路から種々のがんの発症に関与することが証明されてきている。本講演では、子宮頸がんだけでなく種々のがんに対する HPV ワクチンの効果についても知っていただく機会にしたい。